

【Web などでの掲示用】

研究に関するお知らせ

(研究課題名：T・N型カルシウム拮抗薬からL型カルシウム拮抗薬への
持参薬切り替えによる臨床的影響の検討)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。通常の診療で得られた過去の記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分の情報を使ってほしくない」と思いになりましたら、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。

対象となる方

2021年1月1日～2023年12月31日の間に、高血圧治療薬（T・N型カルシウム拮抗薬）を持参され、入院中に高血圧治療薬（L型カルシウム拮抗薬）を処方された患者様（約500名を対象予定としております）。

上記の高血圧治療薬で対象となる持参薬は下記の通りです。

アゼルニジピン	アテディオ®	アテレック®
カルスロット®	カルブロック®	コニール®
シルニジピン	スプレンジール®	ニカルジピン
ニトレンジピン	バイロテンシン®	ヒボカ®
フェロジピン	ベニジピン	ペルジピン
マニジピン	ランデル®	レザルタスLD、HD®

入院中使用された高血圧治療薬で対象となる薬は下記の通りです。

アムロジピン	ニフェジピン
--------	--------

研究課題名

T・N型カルシウム拮抗薬^{※1}からL型カルシウム拮抗薬^{※1}への
持参薬切り替えによる臨床的影響の検討

※1 T・N・L型カルシウム拮抗薬

カルシウム拮抗薬とは血圧に関連する場所に作用することで血圧を低下させる薬です。降圧療法の第一選択薬の一つとして全国で使用されています。薬の作用する場所により、T型、N型、L型と分類されています。

研究代表者

薬剤師 鈴木 祐太

研究の目的

カルシウム(Ca)拮抗薬は高血圧症に対する第一選択薬のひとつとして広く使用されています。

Ca チャンネルにはL型・T型・N型が存在しており、患者さんの病態に合わせたCa拮抗薬が選択されています。型によって作用する場所が異なり、L型は主に血管に作用することで血圧を低下させます。T・N型は腎臓や心臓に作用し、心収縮力・心拍数・腎血流量を調整する効果があります。

しかしながら、当院ではL型のCa拮抗薬を採用しており、T型・N型の持参薬をL型に変更しています。

今回T型・N型からL型に切り替えた場合に、血圧などに影響があるかを調査するために本研究を行います。

利用する診療情報

年齢、性別、体重

検査結果(血清クレアチニン値、脳性ナトリウム利尿ペプチド、尿蛋白)

持参された薬の内容

処方薬(血圧に影響する薬剤等)の使用

人工透析(血液透析、腹膜透析)の有無

血圧、脈拍数

手術歴

研究期間

承認日～ 2026 年 3 月

調査対象期間 2021年1月1日～2024年1月31日

個人情報の取り扱い

お名前、御住所などでの個人情報を特定する情報につきましては、厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

問い合わせ先

独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

薬剤師 鈴木祐太

電話 0986-23-4111 (代表)